

國學院大學學術情報リポジトリ

古墳時代後・終末期における金工品生産の復元的研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 古墳時代後・終末期, 彫金技術, 製作工程, 金工品, 技術群 キーワード (En): 作成者: 松坂, 響空 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001664

論 文 要 旨

学籍番号	233322	氏 名	松坂 響空
論文題目： 古墳時代後・終末期における金工品生産の復元的研究			
(内容の要旨) 本稿では、古墳時代後・終末期対象における、金工品生産ならびに異なる金工品を生産した工人の技術交流を明らかにすることを目的として、1 古墳及び1 古墳群に副葬される金工品の分析をおこなった。 主な分析対象は、装飾付大刀、装飾馬具、冠帽に注目し、彫金が見られる製品に限定した上で、分析基準の統一をはかった。また、対象遺跡は、千葉県木更津市に位置する浜長須賀古墳群を対象に、副葬時期が並行関係である金鈴塚古墳と松面古墳を取り上げた。 分析方法は、彫金技術を重視し、点打ちを主体とする A 類と蹴り彫りと点打ちを主体とする B 類に分類した。そして製作工程内における彫金の施工順序に着目し、1 古墳ごとに副葬される単一の形式内における彫金技術と製作工程も整理した。それに加えて意匠要素と要素技術の整理もおこない、技術群の抽出をおこなった。 分析の結果、金鈴塚古墳出土金工品では点打ちを主体とする彫金分類 A 類の技術群であることが明らかになった。さらに、彫金分類 A 類のなかにも、装飾付大刀の刀装具と関わる技術群と、冠帽に使用された金具などの装身具と関わる技術群であることが判明した。一方の、松面古墳出土金工品では、彫金分類の A 類に該当する技術群と蹴り彫りと点打ちを主体とする彫金分類の B 類に該当する技術群に該当することがわかった。 そしてこれらの技術群を金鈴塚古墳と松面古墳の古墳群内で検討したところ、彫金分類 A 類の刀装具と関わる技術群は古墳群間でも、密接な技術交流があったと理解できた。この背景に、装飾付大刀工房の統合による刀装具の斉一化現象に求められることを追認した。 他方、彫金分類 B 類は古墳群内で技術交流は認められない結果となった。さらに彫金分類 B 類にあたる金工品は要素技術や彫金技術の類似性が高いことから、同じ工人集団によってセット関係の生産がおこなわれたものと推測した。 そして、彫金分類 A 類の装身具と関わる技術群に、前代と認められる技術群に類似していることから、松面古墳出土冠帽の比較、再検討をした。 その結果、意匠要素や彫金技術に関わりがみられないことから、異なる工人集団によって生産されたものと位置付けた。 以上の検討結果から、彫金分類 A 類の刀装具と関わる技術群は古墳群内でも技術交流は認められた。それ以外の技術群には、要素技術などの相関性が希薄なため技術交流は認められないと結論づけた。			
キーワード (5 語) 古墳時代後・終末期、彫金技術、製作工程、金工品、技術群			